

左義長ができるまで

—祭りを支える、制作の現場—



今年の干支は「午」。手作業で形作られていく（宮内町）

左義長を制作する奉納町は全部で13町。今年は子どもも左義長を合わせると、15基が奉納されます。毎年新たに制作され、祭りの最後には奉火されます。

左義長のかたち

左義長は、藁や竹で作られる「松明」、竹に赤い短冊を結び付けた「十二月」そして、干支を題材にかたどられた「ダシ」から構成されています。

祈りを込めて

干支にまつわる古事や歴史、伝統文化を参考に「ダシ」の図案が作られ、正月明けから2～3か月の期間を要して経費や手間を惜しまず作成されます。

ダシの素材は

ダシは神へささげられる奉納物。素材には、干物や穀類・乾物などの食材や麻など、奉納にふさわしいものが使われます。



—湖国に春を告げる火の祭り—

祈りが息づく左義長まつり



▲64年前の左義長まつり（寅年）

▲12年前の左義長まつり（午年）

ダシ制作の流れ

①意匠の考案 → ②素材決め → ③下地制作 → ④仕上げ



今年の干支「午」にちなんだ案を出し合い、今年のダシの図案を決定。



図案に合う素材（食材）は何か、実際に配置などしながら色見や見た目を確認。



ベニヤ板などでかたどった下地に、和紙を貼り、ダシの図案を描き彩色する。



図案に合わせて成形した素材を一つひとつ丁寧に配置していく。

細部に宿る思い

馬の毛並みを再現するため、宮内町では丁寧に梳いた麻の長さを揃え、幅5mmほどの束を貼り付けています。素材選びや貼り方などには、各町のこだわりが出ます。



町で作る左義長

左義長作りは、ダシだけではありません。松明や十二月飾りの準備などさまざまな工程があります。子どもから大人まで、多くの町民が関わりながら、一つの左義長を形作ります。



町民の祈りから始まった祭り

毎年3月中旬に行われる左義長まつり。もともとは旧暦の小正月に行われていた行事で、織田信長が異装華美な姿で馬にまたがり、町衆と踊ったとされる逸話も残されています。時代とともに、姿を変えながら受け継がれており、本市が誇る、国選択無形民俗文化財「近江八幡の火まつり」の行事の一つでもあります。

現在も独特の装いで練り歩き「天下の香祭」とも称される左義長まつりの背景には、町の人々の暮らしに根ざした祈りがあります。

天正13年、豊臣秀次の八幡山城築城に伴い、信長没後の安土城下から移り住んだ町人たちによって、新たな城下町が築かれました。しかし、当時移住者は氏子になることができず、正式な祭礼に参加する立場ではありませんでした。そこで人々は安土城下で行われていた左義長をもって祭礼の代わりとし、市中の繁栄や火除け・厄除けを祈り、神前へ奉納し始めたといわれています。

風流を競い、燃やし、次へつなぐ

左義長を語る上で欠かせないことは「風流」の精神です。趣向を凝らし、善美を尽くし、見る人の目を驚かせること。町ごとに知恵を出し合い、丹精込めて作り上げたダシを携えて、町内を練り歩きます。

一生懸命作ったものを、最後は燃やしてしまふ。その潔さも、この祭りの大切な部分です。完成させることが目的ではなく、燃やし尽くし奉納する所まで含めての左義長。毎年題も表現も変わり、同じものは二度と作られません。この「一回性」が風流の要点であり、曳山などの祭礼とは異なる、左義長まつりならではの特徴です。

年齢や立場を超え、一つのを一緒に作る、その時間が町をつないでいます。全てを新たに作り、燃やし、また次へ。左義長は町の祈りと活力を映し出す祭りです。



それぞれが見つめる左義長

同じ祭りでも、向き合い方はさまざまです。左義長について日々の制作に携わっている、立場や町が異なる3人にお話を伺いました。

高校生の頃から関わり、60年になります。1970年の大阪万博にも左義長を出展し、翌年にはダシ制作を初めて任せられました。当時は町に松明屋やダシ屋があり、そこで材料を調達しました。松明屋がなくなってきたからは自分たちで一から作ることにになり、設計図を頼りに試行錯誤を重ねました。うまくいかず、松明屋を訪ねて撮影させてもらったこともあります。今年になって、ようやく腑に落ちたことがあります。60年目の発見です。祭りの形は変わっても、縄の結び一つが伝統。松明だけは昔ながらの製法で守り続けたいと思っています。

六十年、技を重ねて



息を合わせ
松明を組み上げていく
山本守俱さん (78)
為心町 松明づくり

左義長は、私たちの青春

父がこの町の出身で幼い頃から祭りを手伝ってききました。ダシ作りに関わったのは高校生からです。下地作りや具材貼りのほか、案も出しています。昨年は年長を任せられ、背景6枚のダシに挑戦しました。仕事終わりに集まり、仲間と試行錯誤を重ねる中、不安に押しつぶされそうなどき、町外の友人が駆けつけてくれて感激しました。町に縁のない友人の支えも力にやり遂げ、左義長が燃え上る瞬間は涙が溢れました。左義長は私の青春です。この熱をもっと多くの人に知ってほしいですね。若い世代や女性もきつと夢中になれる祭りだと思います。



意見をかわしながら
形を作っていく
大島穂華さん (28)
新町 ダシづくり

支える力を つないでいきたい

この地域で生まれ育ち、小学生の頃から左義長に関わってきました。一時はこの地域を離れていましたが、祭りの時には必ず戻って手伝っていました。12年前から、この町内では子ども左義長を始めましたが、私はそこから子ども左義長の世話役をさせてもらっています。ダシ作りでは素材を貼ったり、並べたりと子どもたちでもできる工程を設け、彼らの意見も尊重しています。これからの子どもたちに左義長作りの楽しさを経験してもらい、大きくなったら大人の左義長にも関わり、祭りを盛り上げてほしいと思っています。



子どもたちと
デザインや配置を話し合う
福永正さん (56)
第一区 子ども左義長 世話役

450年をつなぐ、 今年の左義長

今年、安土城築城450年の節目にあたります。もともと左義長は、織田信長が築いた安土城の城下で行われていたものが、今日まで受け継がれてきました。時代とともに、祭りの形は少しずつ変わってきました。近年では、感染症の影響で左義長まつり自体を行えない年もありましたが、左義長は作り続け、次の世代へとつないできました。

また、11月の「あづち信長まつり」には440余年の時を経て、左義長まつりの故郷とも言える安土に里帰りできることも、保存会にとって特別な意味を持っています。形が変わっても、思いは変わらずに続けていく。それがこれからの「左義長」として残していくことにつながると考えています。

左義長保存会会長 中嶋勝行



▲保存会で制作した今年の左義長 (文化伝承館)

祭りのスケジュールはこちら

※時間は目安です。



12:30 ~ 左義長宮入り・ダシコンクール審査

各奉納町の左義長が日牟禮八幡宮に勢揃い。出来栄を審査員が審査します。左義長全基がそろるのはこの時だけです。



13:30 ~ 左義長渡御出発

若衆たちに担がれ「チョウヤレ」の掛声も勇ましく旧城下町を練り歩いて渡御を行います。



17:30 ~ ダシコンクール審査発表

日牟禮八幡宮能舞台でダシコンクール審査発表が行われます。



10:30 ~ 左義長大祭

日牟禮八幡宮本殿にて宮司が祝詞を奏上し巫女が舞いを披露します。



13:30 ~ 自由げい歩

町内の威信と誇りをかけ、力の限りに左義長を押し合う通称「ケンカ」が繰り広げられます。



20:00 ~ 奉火

火除け厄除けの願いを込めた奉火。この日まで全霊を込めて作り、全力を出して担いだ左義長が燃えゆく様を見守り涙する若衆たちも少なくありません。



左義長まつりに関して 左義長保存会ホームページ・SNSをご覧ください。



パーク&バスライドも実施します。
本紙14ページをご覧ください。